

# 現代の科学技術と法

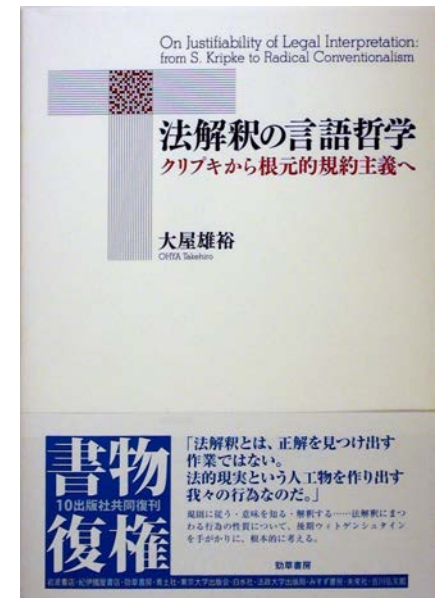
慶應義塾大学法学部 大屋雄裕

Keio University



# へんないきもの

- ウィトゲンシュタイン言語哲学を背景とした法概念論研究
- 情報技術の法・政治システムに対する影響
  - 人間中心のAI社会原則検討会議 構成員(内閣府)
- 科学技術のELSIへの包括的実践研究開発プログラム アドバイザー(JST-RISTEX)
- 地方制度調査会 委員(内閣府)、景品表示法検討会 委員(消費者庁)



# 科学技術のELSI

- 倫理的・法的・社会的問題(ethical, legal, and social issues)
- ビッグサイエンスの時代……原子力・宇宙・生命
  - 科学技術的には既知の問題 known unknowns
  - 適切な規制可能性を担保するために
    - 規制側と被規制側の知識水準格差をどう克服するか
    - 対策としての「遮断」……esp. 原子力規制委員会

# 科学技術のELSI

- AIを含む情報技術の時代……unknown unknowns
  - 当事者にとっても高い不確定性
    - eg. AIの開発者本人も予想しなかった成長
  - 同時併走的なコントロールの必要
    - マルチステークホルダー・プロセス
      - 研究者・技術者 / 事業者 / 消費者・利用者 + 法律家
  - 未知の技術・リスクを予想しながらガバナンスシステムを設計する作業

大屋雄裕「現代科学技術への「法」のアプローチ:事後・事前的規制から同時協働へ」『ビジネス法務』2020年9月号、中央経済社、2020、pp. 65-68。  
大屋雄裕「AIとルール:マルチステークホルダー・プロセスの意味するもの」『労働の科学』2020年11月号、大原記念労働科学研究所、2020/11、pp. 22-25。

## なにをしているのか？……概念分析

AIによる判断は説明が伴わないブラックボックスだ。  
個々人の運命をそんなものに委ねるわけにはいかない。



AIといってもコンピュータ・プログラムにすぎない。  
計算の過程はすべて記録を残すことができる。  
それをもとに分析し、説明することが可能だ。



# なにをしているのか？……概念分析

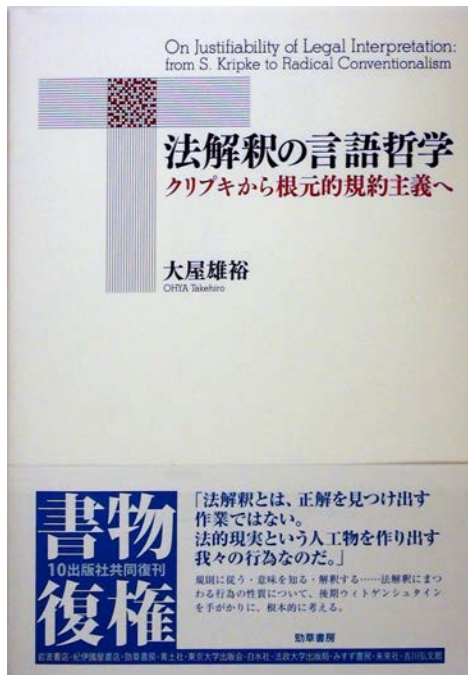
説明＝結論を正当化する**理由**(reason)  
論理的に意味がつながっているということ(意味連関)



説明＝結論までの過程が生じた**原因**(cause)  
事実の問題として因果関係があること(因果連関)



# なにをしているのか？……概念分析



- 中期ウィトゲンシュタインの発想
  - 規準(criterion) ← 理由(reason)
    - ある事態の成立を判定するための定義
    - 応答するものの主体性を前提
  - 徴候(symptom) ← 因果(cause)
    - ある事態に伴うことが経験的に知られた事象
    - 対象の行動が観察可能であれば足りる

# なにをしているのか？……類推と説得

- 法的な説明責任が意味しているもの……理由の開示
  - eg. 行政手続法 14条(不利益処分理由の開示)
    - 前提としての意見陳述……対象者の主体性
    - これが「説明可能性」の意味しているもの
- 他方で……有効性のスコープ
  - 行政庁 = 強制的な権力行使(当事者同意の不在)
  - 不利益処分……対象にダメージを与えるもの
    - 当事者同意が確認できる場合／利益のみが生じる場合 = スコープ外



# アジャイル・ガバナンスと法律家の使命

- 「Society5.0における新たなガバナンスモデル検討会」経済産業省
- 見通せない環境のなかで、暫定的な合意形成に基づきガバナンスのあり方を絶えず更新していく必要
- 法律家の新しく伝統的な役割

